

# 漸進

## 2023

### 流通・アフター首脳に聞く

-11-

全国自動車電装品整備商工組合連合会(電整連)は、自動車ガラス修理事業者の新規加入が増加している。今後は双方の関係がビジネスに発展できるよう、関係深化に取り組み計画。また、電装品整備においても新たな分野への種まきを進めることで、次代の成長につなげる考えを示す紫関雅美会長に、今後の展望を聞いた。

「自動車ガラス修理事業者の会員数が増加している。卒業などで緩やかに電装品整備」

全国自動車電装品整備商工組合連合会(電整連)

紫関 雅美会長



〈プロフィール〉しせき・まさみ 横浜市立大学商学部卒。松下電器産業(現パナソニック)を経て、1991年中村電機商会入社、2004年から社長。09年愛知県自動車電装品整備商工組合理事長。12年全国自動車電装品整備商工組合連合会副会長、14年から現職。1951年9月生まれ、71歳。埼玉県出身。

# 新規加入増で組織活性化

課題を洗い出すとともに、技術的な裏付けとなる講習を模索していく。

## 認証取得率

### 5割目標に

「特定整備制度の認証取得の経過措置の終了まで残り1年となる」

「23年度も22年度と同数の17組合での講習開催を予定している。地区単位で見ると、

## 二種養成講習で関係深化

組合員も多い。ただ、将来的にエアコン修理に伴うフロントパンパーの脱着などでも、認証がないと仕事にもつながらなくなる。こうした点を改めて周知し、可能な限り取得を促していく。

「具体的取り組みは鉛バッテリーの整備の知見や経験を、リチウムイオンバッテリーでも生かせないかと考えている。整備業界でバッテリーの品質を判断できるのは電装品整備工場くらいしかない。実際に行う場合は設備投資や勉強も必要となるが、これまでの知見を生かせる仕事であり、社会的使命もある。われわれが率先して取り組むべき課題だと認識している」

ほぼすべてのエリアをカバーできている。経過措置終了まで最後の1年ということもあり、認証取得を希望する自動車ガラス修理事業者の講習受講に漏れがないような形にしたい。

## 5年先を見据えて種まき

「電装品整備の需要はかつてのカーエアコンと同様に、いよいよカーナビゲーションシステムやドライブレコーダーなどでも完成車の生産ラインであらかじめ装着した車両が増え始めている。そのため、新車の納車時やアフターで取り付ける機会が減り、

「電整連では23年度末で認証取得率の目標を5割に置いている。認証を取得して必ずしもすぐに仕事につながるわけではなく、様子を見ている」

「電装品整備の需要はかつてのカーエアコンと同様に、いよいよカーナビゲーションシステムやドライブレコーダーなどでも完成車の生産ラインであらかじめ装着した車両が増え始めている。そのため、新車の納車時やアフターで取り付ける機会が減り、

「設備投資や人材確保には一定のコストが必要になる」「いずれにしても原資となる作業工賃を確保していくことは重要だ。しっかりとした工賃を確保できるように、電整連としても何らかの手伝いができないかと検討している」

(村上 貴規)